

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果

全国学力・学習状況調査の目的

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善に役立て、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的に、文部科学省が実施しています。
※この調査結果は、子どもたちが身に付けるべき学力の特定の一部であり、学力や学習状況、学校の教育状況などのすべてを表すものではありません。

教科に関する調査

☆成果

国語では、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題において、全国平均を上回りました。特に、目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく表現したりする力が向上しています。

算数では、図形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図したり、図形の角の大きさを求めたりする問題において、全国平均を上回っています。

理科では、電気の回路のつくり方や電磁石の強め方など、実験の方法を発想したり表現したりする問題において、全国平均を上回っています。

☆課題

国語では、資料から叙述をもとに文章全体の構成を捉えて要旨を把握したり、目的に応じて必要な情報を見付けたりする問題において課題が見られました。

算数では、二つの数量関係を的確に捉えた上で、数量の大きさの求め方を式や言葉で説明する問題において、課題が見られました。

理科では、結果や問題に対するまとめから、他の条件での結果を予想したり表現したりする問題において、課題が見られました。

☆今後の授業改善に向けて

国語では、集めた情報を活用して自分の考えが伝わるように内容を明確にしたり、表現を工夫したりする力を育てる授業づくりを行っていきます。

算数では、正しい答えを導き出す方法や正しい式を導く考え方に着目させ、問題解決の過程を大切に活動充実させていきます。

理科では、問題解決の過程において、考察の時間を重視し、科学的に考える力を高めるための授業を工夫していきます。